



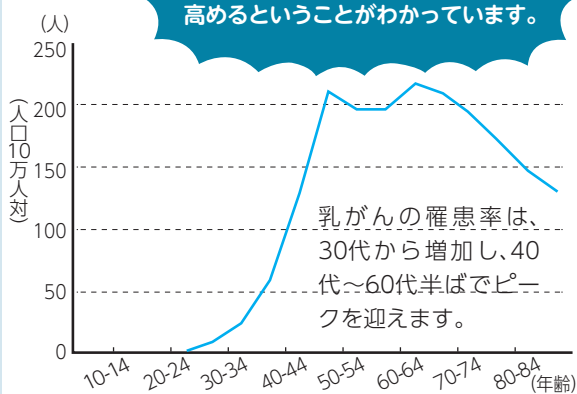
乳がん・子宮頸がん検診を受けていますか？

乳がん

乳がんの発症には、「環境的要因」と「遺伝的要因」があります。「遺伝的要因」による乳がんは全体の5%~10%と言われ、ほとんどの場合が、生活習慣から起因する「環境的要因」によるものと言われています。日本人女性の**11人に1人**が乳がん罹患すると言われています。**乳がんは定期的な検診で早期発見ができ、早期発見であれば95%以上が治癒するがんでもあります。**

市では年齢と共に変化する乳房組織の病変を捉えるために40歳以上の女性に隔年で「マンモグラフィ検査」と30歳~65歳の女性に「超音波検査」を実施(助成)しています。平成30年度より、超音波検査の対象者を65歳までに拡大しました。乳がん検診を受けたことがない方、職場での健診でも乳がん検診を実施していない方は、ぜひこの機会に乳がん検診を受けましょう。

近年の食生活の変化や運動不足、
ストレスや肥満などが乳がんのリスクを
高めるということがわかっています。



乳がんの罹患率は、
30代から増加し、40
代~60代半ばでピー
クを迎えます。

出典:2014年度国立がんセンターがん情報サービス「がん登録・統計」

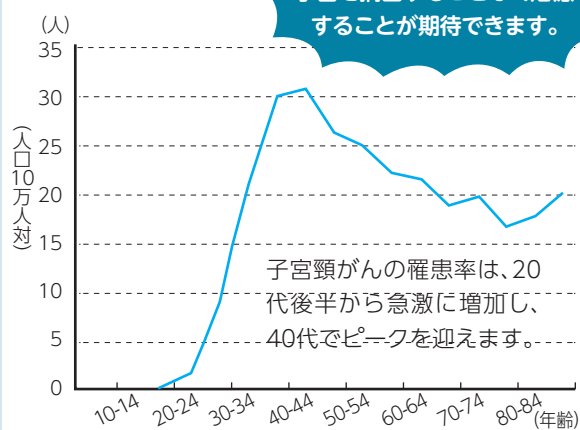
子宮頸がん

子宮頸がんの原因は、約9割以上が性行為や皮膚の接触によるHPV(ヒトパピローマウイルス)の感染によるものです。感染しても多くの場合症状のないうちにウイルスが排除されますが、感染が続くと一部に子宮頸がん前がん病変や子宮頸がんが発生すると考えられます。

20代前半での発症者もあり、30代までの若い患者が多いのが現状です。

市では20歳以上の女性を対象に実施(助成)しています。また、医師の判断によっては、子宮がん検診を実施する場合があります。子宮がん検診を受けたことがない方、一度でも性行為の経験のある方は、ぜひこの機会に子宮頸がん検診を受けましょう。

比較的若年層に多いがんです。
定期的な検診で早期発見ができ、
子宮を摘出することなく治癒
することが期待できます。



子宮頸がんの罹患率は、20
代後半から急激に増加し、
40代でピークを迎えます。

出典:2014年度国立がんセンターがん情報サービス「がん登録・統計」

<市の助成について>

乳がん検診(超音波検査、マンモグラフィ検査)、子宮がん検診の助成は、「医療機関検診」または「集団検診(市保健センターでの検診)」のいずれかを選択できます。医療機関で検診をご希望の方は、対象年齢や自己負担金・医療機関など情報は下記ホームページよりご確認ください※令和2年3月14日まで有効の利用券を発行しています。(今年度の検診受診の年齢基準日:令和2年3月31日)



<http://www.city.ushiku.lg.jp/page/page006225.html>

「広報うしく」9月1日号の保健センター通信では乳がん・子宮がん集団検診のご案内を掲載予定です!併せてご覧ください。